

令和5年7月豪雨災害を踏まえた河北郡市流域治水対策検討部会（第1回）  
議事概要

1. 日時：令和5年8月31日（木）10:00～11:30
2. 場所：石川県庁行政庁舎11階1110会議室
3. 出席者：別紙「出席者名簿」の通り
4. 議題：

- 1) 「検討部会」の設置について
- 2) 令和5年7月豪雨による被害状況について
- 3) 今後の対策について
- 4) 意見交換

5. 開会(挨拶：石川県土木部長)

7月12日の豪雨により河北郡市を中心に甚大な被害が発生した。現在、各機関で災害復旧に取り組んでいるところであるが、今後、同規模の災害が発生した際の被害軽減策を考え、災害防止に取り組んでいきたいと思う。関係者が一体となってハード・ソフトの両面から対策を出し合い、11月を目途にとりまとめたと考えているので、力を貸していただきたい。

6. 議事概要

- 1) 「検討部会」の設置について

検討部会設立の目的について、資料1を用いて事務局から説明。

- 2) 令和5年7月豪雨による被害状況について

ア 金沢地方気象台より、災害発生当日の気象状況について説明。(資料2-1)

イ 石川県土木部河川課より、県管理河川の被災状況等について説明。(資料2-2)

ウ 石川県農林水産部農業基盤課より、農林関係の被災状況等について説明。  
(資料2-3)

エ かほく市産業建設部より、かほく市内の被災状況について説明。(資料2-4)

オ 津幡町産業建設部より、津幡町内の被災状況について説明。(資料2-5)

カ 内灘町都市整備部より、内灘町内の被災状況について説明。(資料2-6)

- 3) 今後の対策について

ア 石川県河川課より、今後の対策ととりまとめの参考事例について説明。  
(資料3-1)

イ 金沢地方気象台より、今後の気象台の取り組みについて説明。(資料3-2)

- 4) 意見交換

〈かほく市〉

- ・7月の河北郡市の豪雨を含め、全国的に想定以上の大雨が多発している。市では1月に断水の対応も経験しており、災害時の初期対応の難しさ、特に住民への周知方法に難しさを感じているところである。やはり我々自治体は、住民の皆様へ、

良いタイミングで良い情報を的確に伝える責任もあるのではないかと思います。

- ・災害を避けることはできないので、災害が来た時にどのような対応をするべきか、段階を踏んで全体を見て動かしていくことの重要性を、今回の災害で改めて感じた。
- ・ハード対策はどんどん前倒しで進めていただきたい。浚渫土砂の置き場等、遠慮なく市に相談してほしい。ハード対策もソフト対策も両輪でやっていかないとけないと感じている。

(金沢河川国道事務所コメント)

- ・流域治水プロジェクトは、今回のような豪雨に対処するため、関係する国、県、市、関係機関が一緒になってハード対策・ソフト対策を早期に進めていこうというもの。ハード対策にはどうしても時間がかかるため、どのような避難計画、ソフト対策を行っていくかが大切であり、このような趣旨から今回の場が設けられたと思う。
- ・今後、梯川の事例も参考にしながら、各自治体で対応を考えていただき、プロジェクトをとりまとめていただきたい。

<津幡町>

- ・先ほどからハード対策という話も出ているが、小手先の改修を行っても、今回のような豪雨には対抗できないのではないかという不安がある。そのため、流域でいろんな対策を考えようということも今回の集まりの趣旨だと考えている。
- ・例えば、町に増えている耕作放棄地に遊水地機能を持たせるなど、いろいろ考えてみたいと思う。また、森林の保水機能や降雨を山の中に留めておくような対策が必要なことだと思っている。地理的条件により難しい対策もあるとは思うが、今後、大々的な流域対策ができればと思う。
- ・今回、県管理河川の支川（準用河川）の氾濫が多かったので、県には、準用河川も含めた総合的な被災要因の検証をお願いしたい。また、県では河川の堆積土砂除去を行っているが、河北潟東部承水路も再度確認し、必要な堆積土砂除去をお願いしたい。
- ・今回、金沢市近辺は比較的被害が少なかったが、今後、町の南側に大雨が降った場合は被害が出ると思う。東部承水路の排水能力向上のため、排水ポンプの機能アップや整備は前倒しで進めていただきたい。
- ・ソフト対策について、注意報や警報がもっと早く発令できれば、早期に水門や用水堰の開門指示が可能となり被害が軽減できたかもしれないので、今回のデータについても評価したらよいと思う。

(石川県土木部河川課コメント)

- ・準用河川の検証について、津幡町から周辺の浸水被害の状況や浸水範囲、被災水位等の情報提供をいただいたうえで、協力して検証していきたいと思います。

(金沢地方气象台コメント)

- ・注意報、警報の発令が遅かったのではというご指摘をいただいた。今後の取り組

みとして説明したとおり、警報等の発令基準の見直しは毎年実施しており、今後  
も取り組んでいく予定である。今回の事例も追加しながら、より良い基準で適切  
な発表ができるよう努めたい。

〈内灘町〉

- ・西部承水路の排水について、河川施設の他に農業用の排水施設もあるので、緊急  
時にはそのような農業用施設も活用して排水を行い、被害軽減できるように検討  
をお願いしたい。

(石川県農林水産部農業基盤課コメント)

- ・国で改修中の排水機場や、県で管理する排水施設があるので、緊急時の活用を検  
討し、この部会で議論したいと思う。

〈金沢市〉

- ・7月の豪雨では、市北部で道路冠水が発生したものの、大きな被害はなかった。
- ・市では、大野川水系の河川改修を進めているが、他の河川同様に時間がかかって  
いる。そのような中でも、買収済み用地を調整池として活用するなど、早期に治  
水効果が発現するよう工夫をしている。しかしながら、大雨時には河北潟の水位  
が高くなるため自然流下ができず、合流部の水門を閉めて、国および県のポンプ  
排水に頼っているのが現状である。土地改良区の協力を得て、事前に排水ポンプ  
を稼働させ河川の水位を下げ、河川水位の上昇を遅らせる取り組みを行って  
おり、関係機関とこれまで以上に連携し、より早期に効果的な対策を進めてい  
きたいと考えている。

〈石川森林管理署〉

- ・森林管理署では、国有林内で森林整備、治山事業を実施している。河北郡市周辺  
では国有林がないため直接的な防災減災事業は実施していないが、過去に災害の  
現地調査の支援や、技術的な支援を行っており、今回も積極的に支援できればと  
考えている。引き続き関係機関と連携して、流域治水対策の強化に取り組んでい  
きたい。

〈森林整備センター 金沢水源林整備事務所〉

- ・森林整備センターでは河北郡市内で森林造成事業を行っており、適切な森林管理  
により災害に強い森林を造成していくことで、治山治水のほうで協力したいと思  
う。また、林道等の崩壊について災害復旧の技術支援も可能なので、ご一報いた  
だければと思う。

〈石川県危機管理監室〉

- ・先日、7月の豪雨の被災現場を確認して、大変な状況であったし、今も復旧が続  
いているということで、大変なご苦勞をされていることに対して敬意を表したい  
と思う。
- ・最近の雨の降り方は、過去の経験で考えては対応できないということを前提  
として、いろんなことを考える必要があると思っている。
- ・7月の豪雨の際は、県庁では土木部と我々防災担当の者が一緒に、水位の状況や避

難指示等について注視していた。本日は各市町の河川のハード部門の方々がお集まりであるが、各市町においても、防災担当の部署といっそう連携して対応していただきたい。

- ・避難指示などのソフト対策と、ハード対策をうまく組み合わせてこれからの災害に対応していく必要があるということを感じている。引き続き、土木、農林のハード部門と連携して対応していきたい。

<北陸農政局>

- ・今回、関係市町で大きな被害が出たということで、お見舞い申し上げます。
- ・農政局では、被害を防ぐために、ため池の水位を低下させるための排水ポンプ車の派遣等をしたところ。今後、県や関係市町の協力を得ながら災害査定に入っていくので、引き続きよろしくお願ひしたい。また、自治体の支援をしていきたいと思う。

<金沢河川国道事務所>

- ・いろいろな意見が出たが、やはり流域全体でなんとかしていく必要がある。想定外を作っていないということが大事だと思う。
- ・今後、関係機関の皆様からいろいろご提案をいただいて、進めていただければと思う。流域全体で進めるためには、やはり組織全体で取り組むことが必要。土木部門、防災部門だけではなくて、先ほどの浚渫土砂の置き場の例のように、いろんな部署と情報交換することも大事だと思う。
- ・プロジェクトがとりまとまった後も、新たな一手があれば、それに取り組んでほしい。

<石川県土木部>

- ・各市町からの切実なお話があったし、住民の方々のいろんな不安もあると思う。私達行政がまとまって、その不安を少しでも解消できるよう取り組んでいきたいと思うので、よろしくお願ひします。

### 3. 閉会（挨拶：津幡町産業建設部長）

今後の流域治水対策推進のためには、流域内の関係者の連携がこれまで以上に重要。皆様のご協力をお願いしたい。